

## 珍しい半月形「中池」

当地に関して残る古文書記録は、市内の他の町々に比べ極めて少ないのですが、戦国時代・天文一九（一五五〇）年の「京大蔵・一乗院文書」に南都・興福寺領「中村庄」が見えます。

また、江戸時代（年代不詳）の文書に「中村郷」とありますので、中世以前から当地に「中」と呼ぶ集落のあったことが推し量れます。そして、江戸時代を通じ「中村」と呼ばれて過ごしています。

明治二二年に町村制の施行で耳成村大字「中」となりました。さらに昭和三一年一月に「檀原市中町」となっています。同四六年ごろ町の西部に積水団地が形成され、戸数が三〇〇戸を超え人口も千人を上回りました。

当地は、古くから寺川の南側平坦地に位置してきました。ごく最近まで町の東南部に長いS字型の「中池」がありました。池の南半分が開発で農地などになり現在は、町中の道路に沿って珍しい半月形の北半分だけが残っています。この中池について土地の古老たちの話を総合しますと、寺川からあふれ出て低溝地に流れ込んだ水が十分に引き切らず残って池となったか、それとも古い川の旧流路が今日まで残ったものだろうと思われれます。